

事務事業評価が スタートします

市では、事務事業評価に取り組み、市民の満足度・納得度の向上と経費の節約を図り、将来も市民が安心して生活できる自治体でありたいと考えています。

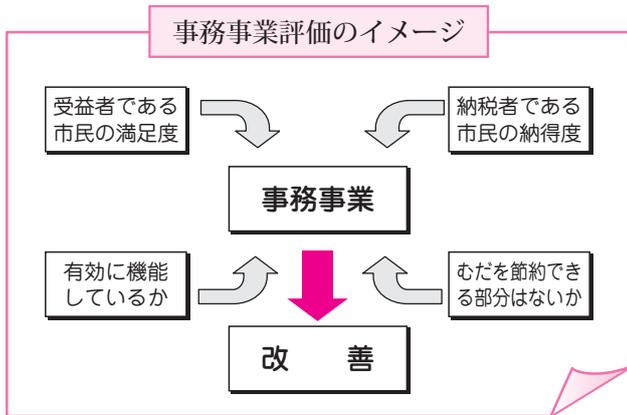
事務事業評価とは

市は、「行政の仕事の評価する」という取り組みを平成20年度から実施することになりました。行政の仕事は、利益を目的とする民間企業とは異なり、黒字・赤字では判定できませんので、お金に代わる物差しとして「事務事業の成果」を測定しようというものです。

これまででは、「事務事業の成果」といえば「行政がどんな活動をしたか」を指していました。例えば、「〇〇講演会を〇回開催した」「市民啓発のために△△パンフレットを〇部作った」「□□道路を〇km整備した」などです。

しかし、本当の成果は「活動の結果、市民生活にどのような影響や効果があったか」であり、これに習うと、「〇〇について〇人ができるようになった」「〇〇について〇%の市民が理解した」「□□道路周辺の渋滞が解消された」になります。

そして、市民の目線で事務事業の目的を再確認します。「〇〇につい



て〇%の市民が理解する」ことは市民にとって必要なことなのか、そして「そのために市民の税金を使う」ことは納税者の理解を得られるのかどうかです。

その上で、税金を使って行うその事務事業は有効に機能しているか、無駄な部分がないかなどを検証し、改善を加えます。

実際の評価例

事務事業の状況

市が実施する〇〇イベントは、チラシ代100万円、共同主催の△△組合に補助金100万円の合わせて200万円を支出し、3人の市職員が従事しました。主催者は努力しているのですが、年々参加者が減少しています。

参加者からのアンケートによると、ほぼ全員が「広報とわだ」または△△組合からの情報でイベント開催を知ったようです。また、歌手以外のゲストを望む声がほとんどでした。なお、従事した市職員の1人は、特に割り当て業務がありませんでした。

評価① 実施の必要性を考える

一番大切なことは、そもそもこの〇〇イベントに市民は興味・関心があるか、そして、税金を投入して続けることを納税者が納得するかどうかです。続けるならば内容の大幅改善、場合によってはイベントの終了も考えます。

評価② 効果を上げること考える

家族で来たかたが多かったので、△△組合にお願いして、ゲストをアニメヒーローに取り換えてもらい、参加者の満足度向上を図る必要があります。

評価③ 無駄を減らすこと考える

チラシがまったく効果を発揮していませんので、100万円という大金が非常にもったくない。チラシ配布をやめるか、学校のPTAの場合など効果が高いところで配るという工夫が必要です。また、職員も2人で十分です。割り当て業務のない職員は、職場に戻って市民の役に立つ仕事をするべきです。

結論

来年度は、内容を変え、無駄を減らして実施。効果がなければ再来年度は廃止。事務事業評価のポイントとしては、

- ① できるだけ数値を使って「評価」します。
- ② 評価の結果、出てきた改善点を翌年度の事務事業に活かします。かなり極端な例えでしたが、評価のイメージが伝わりましたか。



問い合わせ先

企画調整課

(☎) 25111 内線164